

## 今週（2月3日から2月7日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、試し取り(ストレステスト)が増加する時期となり、一部で政策金利を上回る水準での出会いも見られたが、それ以外の取引では引き続き動意に乏しく落ち着いたマーケットとなった。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、3日(月)は0.476%、4日(火)は0.477、5日(水)と6日(木)は試し取りの影響により0.479まで上昇、7日(金)は週末となった事で再び通常の取引が中心となった。

ターム物に関しては、比較的期間の短い物が中心となるなか、1W~1M物で0.530~0.550%近辺での出会い、3月末を跨ぐ2M以上の物では、0.60%前後で出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、先週末時点では528兆円台前半となっていたが、週前半に2年債の発行超過、法人税・消費税揚げ、年金保険料揚げ、10年債発行要因により、5日(水)までに517兆円まで大きく減少した。6日以降は小幅な増減に留まった結果、7日(金)は517兆円強での着地見込みとなった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は0.35~0.485%近辺で推移した。6日(木)のT/Nは、短国3M物と6M物の償還が重なったことによりオファーが減少したため、一時的にレートが低下したが、そのほかの日では業者、投資家ともに厚めにオファーが入り、安定して推移する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y445~469回、5Y150~175回、10Y355~377回、20Y180~191回、30Y65~85回、40Y13~17回などで引き合いが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は全ゾーンが横ばい圏で推移した。

6日(木)に実施された6M物入札は強めの結果となり、その後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。7日(金)に実施された3M物入札は、テールが流れる結果となったものの、その後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、石油、鉄鋼、卸売りなどの業態で大型発行が実施された。

市場残高については、25兆円台後半で緩やかに増加する展開となった。1月の利上げ以降、企業の調達コストは上昇しているものの、依然としてCPでの資金調達ニーズは根強い状況が続いている。

発行レートについては、政策金利の引き上げ以降、0.5%以上で推移しており、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られている。そうした状況のなか、短い期間での調達を先行する動きが散見された。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/3 (月)	38,520.09	1.244	155.70	0.476	0.431	5,265,500
2/4 (火)	38,798.37	1.274	155.28	0.477	0.448	5,197,800
2/5 (水)	38,831.48	1.280	154.00	0.479	0.449	5,170,900
2/6 (水)	39,066.53	1.260	152.56	0.479	0.410	5,179,400
2/7 (金)	38,787.02	1.300	151.22	0.477	0.445	5,176,700

## 来週（2月10日から2月14日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/10 (月)	12月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				
2/11 (火)	建国記念の日				
2/12 (水)	1月のマネーストック(日銀 8:50)	10Y物価 2,500億円 2/13発行			1月の米消費者物価指数 1月の米財政収支
2/13 (木)	1月の企業物価指数(日銀 8:50)				1月の米生産者物価指数 10-12月期の英GDP速報値
2/14 (金)		TB3M 45,000億円 2/17発行	5Y 23,000億円 2/17発行	国有林野借入 960億円 2/25借入	1月の米小売売上高 1月の米鉱工業生産・設備稼働率 12月の米企業在庫 10-12月期のユーロ圏GDP2次速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/10 (月)	900	2,000	2,900	国債買入 国債補完	9,200 6,500		15,700	18,600	TB3M発行▲45,000 償還43,000 TB6M発行▲35,000 償還37,000
2/11 (火)									
2/12 (水)	1,500	2,000	3,500				0	3,500	
2/13 (木)	1,000	▲4,000	▲3,000				0	▲3,000	源泉税揚げ 10Y物価連動発行▲2,500
2/14 (金)	1,500	75,000	76,500				0	76,500	年金定時払い 交付税借入▲12,500 期日12,500
週間合計	4,900	75,000	79,900	—	15,700	0	15,700	95,600	

### ●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態を中心に堅調な調達ニーズが見込まれる事から、レート水準は横這い圏での推移が見込まれる。債券レポGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは0.40～0.48%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、14日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、発行が減少しやすい四半期の中間月となっているが、残高がどの程度積み上がるか注目される。

主要なイベントは、国内では10日(月)に12月の国際収支、1月の景気ウォッチャー調査、13日(木)に1月の企業物価指数、海外では、12日(水)に1月の米消費者物価指数、13日(木)に10-12月期の英GDP速報、14日(金)に1月の米小売売上高、10-12月期のユーロ圏GDP2次速報などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお読みする書面や目録見書をよくお読みください。